

修士論文要旨

2010年1月

虐待を受けた子どもとのアートワークを通じた
非言語的・言語的コミュニケーションの促進

指導： 茂木 俊彦 教授

桜美林大学大学院 国際学研究科

人間科学専攻 健康心理学専修

208 J 5021

三谷 英子

目 次

はじめに

第1章 序論

第1節 現状

第2節 背景

第3節 問題

第2章 先行研究

第1節 子ども虐待による心身および行動への影響に関する研究

第2節 虐待を受けた子どもに対する心理療法に関する研究

第3節 虐待を受けた子どもに対する芸術療法に関する研究

第3章 本研究の目的と意義

第1節 目的と意義

第4章 研究の対象者と方法

1 対象者の属性

2 対象者の選定

3 アートワークの実施について

3-1 時期

3-2 対象

3-3 方法

3-4 アートワークの手順

4 効果評価の指標

4-1 職員

4-2 対象者

4-3 その他

5 分析方法

6 倫理的配慮

第5章 アートワークの経過と考察

第1節 事例の提示

第2節 アートワークの介入

第6章 総合考察

文献

第1章 序論

第1節 現状および問題

日本では平成12年(2000年)の「児童虐待の防止等に関する法律(以下、児童虐待防止法)」の制定を契機として、子ども虐待への法的な介入のあり方に関しては整理が進みつつある(子どもの虹情報研修センター, 2009)。また子ども虐待への対応や保護についても社会的関心が高まり、福祉、医療、保健、心理、保育、教育などの専門分野でも意識が高まってきた(西澤, 1997)。しかし、児童虐待防止法施行後も児童相談所では虐待相談や通報件数は毎年増加し、平成19年度では40,639件、そして平成20年度では42,662件と報告された(子どもの虹情報研修センター, 2009)。子ども虐待など不適切な養育環境にさらされた子どもは、早期の発達課題を十分に獲得できず、人格を形成する上で大きな影響をもたらされる。また子どもの心身および行動への影響としては、身体的な影響、知的発達への影響、精神的な影響、繰り返し虐待を受ける危険性、他者や自分を傷つける危険性などが指摘されている(西澤ら, 1999; 庄司, 2007; 奥山ら, 2008)。

第2章 先行研究

先行研究では、虐待を受けた子どもに対しての研究の動向は、情緒・行動の側面、発育・発達の側面、対象児の特徴に関する側面などの研究、更に虐待に起因して生じている問題行動に対する心理療法の効果といった観点からの研究が報告されている。

第1節 子ども虐待による心と身体および行動への影響に関する研究

情緒的あるいは行動上の問題(西澤, 2008)、トラウマ関連障害とアタッチメントの問題(奥山, 2008)、虐待を受けた経験が脳の発達におよぼす影響(田村ら, 2006; Teicher MHら, 2002)、解離や心的外傷後ストレス障害(PTSD)(杉山ら, 2001, 2007; 奥山, 2008)などの研究がある。

第2節 虐待を受けた子どもに対する心理療法に関する研究

養護施設に入所中の子どもの虐待経験調査から心理的ケアについて検討し、修正的アプローチ(環境療法)(西澤, 1997; 2000; 大迫, 2003; 下笠, 2004)と回復的アプローチ(トラウマ・ワーク・ポストトラウマティックプレイセラピー)(Gil E, 1991; 西澤, 1997, 2000)の2種類のアプローチを平行して行うケアが有効的であると提唱している。

第3節 虐待を受けた子どもに対する芸術療法に関する研究

芸術療法は心理療法の要素に加え言語だけでは十分に伝えられない内的な感情や考えの部分を、非言語的表現によって自己を表す手段、橋渡し機能などとして用いられている。芸術療法に関する研究をみると、医療(Johnson JLら, 1986; 荒木, 2004; 間島ら, 2007)、教育(芝, 1999)、福祉(中道, 2006)、カウンセリング(Avrahami D, 2005;)、司法矯正(藤掛, 1999)などの現場では、絵画やコラージュ表現を利用したアプローチが行われ有効性が検討されている。虐待を受けた子どもに対しても、カウンセリング(Stember C, 1978; 牧田, 2001)、医療(Kelly SJ, 1985)など芸術療法の有用性が明らかにされている。

第3章 本研究の目的

本研究では、不適切な養育環境にさらされ児童養護施設に入所するに至った子どもに対して、アートワークによる非言語的表現アプローチを通して言語的表現が促進されることで、またそのプロセスの中で起こるサポーターと子どもあるいは子ども同士の相互作用・相互支援によって、

子どもの心と身体および行動に表れているストレス反応が軽減されるかどうかを検討することを目的とする。

第4章 研究の対象者と方法

1. 対象者の属性：児童養護施設に入所中の被虐待児5名(小学4年～6年生)
2. 対象者の選定：1)虐待の体験 2)年齢が10歳以上15歳未満 3)心身および行動が気になる 4)アートワーク全12回に参加できる。これらの基準にあった5名を職員に選定してもらった。
3. アートワークの実施について：1)対象：被虐待児5名 2)時期：2009年3月～5月までの毎週日曜日午後全12回 3)方法：①絵画またはコラージュ表現②ICレコーダーにて会話の録音③全12回中3回事前事後に「気分評価票」(大野ら, 2003)「フェイススケール気分評価」 4)アートワークの手順：①開始：サポーターの「あいさつと導入」②非指示的アプローチ(自分が描きたいものを描く。自由に材料を選ぶ。)③作品完成後「題名」の発表④終了：次回の日程確認⑤後片付け
4. 効果評価の指標：1)職員記入質問紙調査：①「施設内行動観察チェックシート」*(福山ら, 2002) 2)被虐待児自記式質問紙調査：①「自尊感情尺度」*(ローゼンバーグ M, 1965; 近藤ら, 2007) ②「DSS-K健康調査票」*(大野ら, 2003)*事前事後に実施 3)その他：対象者の属性は①「児童福祉施設における自立支援のためのアセスメント」②「入所以前の子どもの被虐待的体験」(福山ら, 2002)を用いて職員に記入してもらった。

第5章 総合考察

全12回のアートワークで子どもたちは、非言語的表現アプローチを通して言語的表現の促進が行われた。非言語的表現では、直接的に自己表現することを可能にし、また言語化困難な感情的要素をイメージで代行したり、補足したりすることが可能な手段となった。言語的表現では、作品に関係する会話に留まらず、自分の内化されている感情、日常生活の出来事など、自発的で無意識的に表現され始めた。そして、サポーターは子どもの発するサインを捉えることが容易となった。アートワークのプロセスの中でサポーターと子どもたちとの「共有・共感」体験の積み重ねが可能となった。また、そのプロセスの中で起こるサポーターと子どもあるいは子ども同士の相互作用・相互支援も徐々に活発に行われた(第5章第2節の2事例経過を参照)。事前調査で用いた質問紙で事後調査を行い、アートワークの介入経過と対比させ、子どもの心身および行動に表れているストレス反応が軽減されるかを総合的に検討した。その結果、子どもの心身および行動に表れているストレス反応の軽減効果が得られたのは3人、ストレス反応の軽減効果があまり大きく得られなかったのは2人であった。

アートワークに参加した子ども5人の心身および行動に表れているストレス反応の軽減効果には違いが表れているが、あまり大きく得られなかった子ども2人についても、長期的なアートワークを通じたアプローチを提供していくことで、3人のような効果が得られる可能性がある。今回の結果に限らず共通なアートワークについての感想は「楽しかった」「またやってほしい」「また遊びたい」と最後のアートワークで子ども5人から確認が得られた。この感想は、子どもたちにとって「アートワーク」の場所は、安全で安心感の持てる環境、信頼できる大人(サポーター)の存在がある環境、サポーターあるいは子ども同士での「共有・共感」の体験ができる環境となり得た可能性がある。

主要参考文献

- 荒木登茂子・岡 孝和・小山直巳ら 2004 芸術療法の導入が有効であった心因性発熱の1例. 心身医学 44(4)、290-295
- Ann W. Burgess, Carol R. Hartman 1993 *Children's Drawings*. Child Abuse & Neglect 17, 161-168
- Avrahami, D 2005 *Visual Art Therapy's Unique Contribution in the Treatment of Post-Traumatic Stress Disorders*. Journal of Trauma & Dissociation 6(4), 5-38
- Gil, E 1991 *The healing power of play*. NY: The Guilford Press エリアナ・ギル著・西沢哲訳 1997 虐待を受けた子どもプレイセラピー. 誠信書房
- 大野太郎・山田富美雄ら 2003 ストレスマネジメントフォキッズ(小学生用)ストレスマネジメント教育. 東山書房
- 奥山真紀子・浅井春夫ら 2008 子ども虐待防止マニュアル. ひとなる書房
- 厚生労働省政府統計・社会福祉行政業務 <http://www-bm.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/gyousei/07/kekka8.html>
- 子どもの虹情報研修センター <http://www.crc-japan.net/index.php> (アクセス日 2009. 6)
- Cohen-Liebman MS 1995 *Drawings as Judiciary Aids In Child Sexual Abuse Litigation: A composite List of Indicators*. The Arts in Psychotherapy 22(5), 475-483
- Kelley SJ 1985 *Drawings: Critical Communications for sexually abused Children*. Pediatric Nursing 11, 421-426
- 近藤卓・股村美里ら 2007 いのちの教育の理論と実践. 金子書房
- 庄司順一 2007 改訂新版 子ども虐待の理解と対応 子どもを虐待から守るために. フレーベル館
- Johnson JL & Berndts CA 1986 *The we can weekend*. American Journal of Nursing 86(2), 164-166
- 杉浦京子 1993 コラージュ療法における相互作用について. 日医基礎科学紀要, 15, 27-41
- 杉山登志郎・中村素子 2001 発達の視点からみた子ども虐待の後年への影響とその治療—被虐待児の年齢による症状の違いと治療的対応を巡って—. 安田生命研究助成論文集 37, 53-62
- 杉山登志郎 2007 子ども虐待という第四の発達障害. 学研のヒューマンケアブックス
- 中山浩・伊藤真人・中山正俊ら 2007 医療・保健・福祉連携による虐待防止と家庭支援の試み. 精神科治療学 22(2), 215-220
- 中道芳美・鮫島道和・顧寿智・杉浦敏文 2006 絵画療法とその効果の唾液コルチゾールによる評価. 聖隷クリストファー大学看護学部紀要 14, 169-176
- 西澤 哲 1997 虐待の心理的影響と子どもの心理療法. 小児の精神と神経 37(2), 137-143
- 西澤 哲 2008 トラウマが子どもに与える影響: 虐待と心の傷. 教育と医学, 56(5)、4-14
- Teicher MH, Andersen SL, Polcari A, et al 2002 *Developmental neurobiology of childhood stress and trauma*. Psychiatr Clin North Am, 25, 397-426
- 田村 立・遠藤太郎・染矢俊幸 2006 虐待が脳に及ぼす影響. 精神医学, 48(7), 724-732
- Burgess, AW, Hartman, CR 1993 *Children's Drawings*. Child Abuse & Neglect, 17, 161-168
- 福山清蔵・阿部恵一郎・奥山真紀子ら 2002 児童福祉施設における自立支援のためのアセスメント作成の研究. 厚生労働科学研究費補助金 総合的プロジェクト研究分野 子ども家庭総合研究
- 藤掛 明 1999 非行臨床におけるコラージュ療法. 現代のエスプリ 386, 219-227
- 牧田浩一 2001 被虐待児に対するコラージュ療法の試み. 日本芸術療法学会誌 32(1), 21-28
- 間島富久子・岡山征史朗・太田百合子ら 2007 集団コラージュ療法が摂食障害入院患者に有用であったと考えられた1例. 心身医学 47(2), 123-131